

プラタナス

那須赤十字病院 広報誌

No.20

平成30年1月発行

Japanese Red Cross Nasu Hospital



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

那須赤十字病院

謹賀新年

院長挨拶

新年のご挨拶

特集チーム医療

摂食嚥下チーム

登録医紹介

大田原中央クリニック

看護師コラム

マイタウン・マイホスピタル

ミニニュース

お知らせ

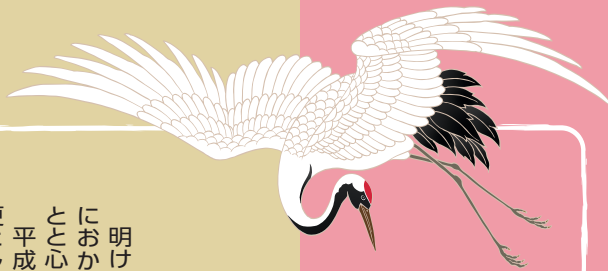
明けまして
おめでとう



マイタウン・マイホスピタル

～地域に根ざし、ともに歩み、心ふれあう病院に～

院長挨拶



新年のご挨拶

那須赤十字病院 院長 白石 悟



白石 悟院長

明けましておめでとございます。みなさまにおかれましては健やかに新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

平成24年7月に名称を那須赤十字病院と変更として新築移転して5年が経過しました。

昨年を振り返って

昨年は振り返ってみますと、3月27日に発生した那須町の雪崩事故に対して、当院のDMATを現地に派遣し、救急隊・他病院救護班などとともに、日本赤十字社の使命である災害救護にあたりました。

さらに現地の指示（トリアージ）により、当院へも多くの被災者が搬送され、県内のDMATとともに治療にあたりました。あらためて犠牲者の方々のご冥福をお祈りしますとともに、被災されたみなさまにお見舞い申し上げます。

そして、7月には、平成24年7月に名称を那須赤十字病院と変更し、現在地に新築移転してから5周年を迎えることができました。わが国の医療を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いておりますが、地域のみなさまのあたたかいご支援によって、当院は栃木県北唯一の三次救急指定の公的医療機関として、当地域における最後の砦としての役割を果たすことができいております。あらためて感謝申し上げます。

救急・周産期医療提供体制を構築

今世紀はさらなる超高齢化社会へと進んでいくことが予想されます。高齢化の進展に伴い、高齢者の急変対応も増加することが予想され、今年はまず救急医療に率先して当たってもらえる医師の確保など救命救急センターの機能向上に取り掛かって参ります。報道にもありましたドクターヘリの就航計画も救命救急センター構想と平行して進めていかなければなりません。今後栃木県からの要請となれば、現在事務局を中心に地域と連携するために必要な手続きを進めていく必要があります。救命救急センターがうまく稼働するためには、もちろん救急部の専任医師にしっかり頑張ってもら

わなければなりません。病院全体、そして地域全体のバックアップも不可欠です。

高齢者に対する救急医療・在宅医療・訪問看護だけでなく、周産期領域についても、患者推計としては減少傾向にあります。妊婦の高齢化によるハイリスク出産の増加が懸念され、しっかりした対応が必要となっております。そこで、当院は県央以外では県内でも比較的早い週数の新生児の受け入れを可能としており、小児科医師の人員を確保し、小児救急看護や新生児集中ケア認定看護師などによる周産期医療提供体制を構築しております。

当院の基本理念を胸に

本年も引き続き、「マイタウン・マイホスピタル」を地域に根ざし、ともに歩み、心ふれあう病院に、を当院の基本理念として、みなさまに信頼されるより良い病院を目指して参ります。

超高齢化社会を迎えるにあたり、医療に加え福祉まで見据えた取り組みが求められており、今後より一層、慢性期や在宅などの連携も充実強化して参ります。地域のみなさまのニーズにお応えして、質の高い安心安全な医療を提供し、働きやすく働きがいのある、信頼される病院であり続けるよう邁進努力していく所存です。

それでは、今年一年が当院にとって、そしてみなさまにとっても良いお年となりますよう祈念いたします。年頭のご挨拶といたします。



チーム医療とは従来、医師が中心となった医療を、職種の異なる医療従事者が、お互いの専門性を発揮し、スムーズに連携していく、患者中心の医療です。医療従事者は、医師・看護師・薬剤師・理学療法士・作業療法士・社会福祉士・管理栄養士・検査技師・放射線技師・事務など多職種で構成され、対等の立場でお互いの意見を尊重し、個々の患者さんの状態に合わせた質の高い医療を提供します。当院のチーム医療は全部で10チームになります。第六回の今回は「摂食嚥下チーム」を紹介します。

【摂食嚥下チームとは】

摂食嚥下とは、食べ物を「食べる・飲み込む」事を言います。

食べ物を「食べる・飲み込む」事は、生きるために必要な栄養を補給するのみならず、楽しみであり、交流の場でもあります。

しかし、病気や高齢になる事で、「食べる・飲み込む」事に障害をきたす場合があります。

例えば、「ムせてしまい上手く食事が食べられない」といった症状を呈する場合があります。

摂食嚥下チームは、「食べる・飲み込む」事に障害のある入院患者さんに関わり、□から上手に食事が摂れるようサポートしていくチームです。

【構成人員】

・医師

(脳神経外科医、歯科口腔外科医)

・看護師

・言語聴覚士

・歯科衛生士

・管理栄養士

・理学療法士

・作業療法士

【活動内容】

①摂食嚥下チーム回診

「食べる・飲み込む」事に障害のある

入院患者さんを対象に、機能の維持・

向上を図る事を目的に、カンファレンスと回診を行っています。回診では、患者さんの全身状態から、姿勢、口の中の状況、実際の飲み込みの様子などの評価、治療や訓練内容の検討を行い、患者さんがより安全に安定して食事が食べられるよう、サポートしています。

②摂食嚥下障害に対する啓蒙活動
○新人看護師を対象とした新人研修
摂食嚥下に関する講義や実技を実施し、新人看護師が患者さんに合った摂食嚥下ケアにあたる事ができるようチームでサポートします。

○院内研修
全職員を対象とした研修会を開催し、摂食嚥下に関する様々な情報を発信、周知徹底に努めています。

○マニュアル、ガイドラインの整備
摂食嚥下に関するマニュアルやガイドラインを作成、知識・技術の共通認識に努めています。

③摂食嚥下チームメンバーでの勉強会
チームメンバー内で摂食嚥下に関する知識が共有できるよう勉強会を行っています。

④委員会の開催
患者さんにより良い摂食嚥下ケアが行えるよう、話し合いを行っています。



摂食嚥下チーム



病棟ラウンドの様子



八代院長

診療所の先生方はみなさんの健康を支えてくれる心強いパートナー。こちらのコーナーでは日々当院と連携いただいている診療所の先生を紹介していきます。

今回は「大田原中央クリニック」をご紹介します。

対象疾患 整形外科、漢方内科、リハビリテーション科

得意分野 骨折など外傷の治療、腰痛・膝痛・肩こりなど慢性疾患の漢方治療

先生にインタビュー

当院との医療連携について期待されていることはどのような点ですか？

当クリニックが専門科としている整形外科はもちろんのこと、放射線科、救命救急センター、リウマチ科、形成外科など各科の先生方や、患者さんの紹介窓口である地域医療福祉連携課の皆様には大変お世話になっております。過去を振り返ってみても、私が旧大田原赤十字病院の整形外科医として勤務していた頃から多くの温かいご指導をいただき、また、新病院である那須赤十字病院（以下、日赤とします）では、それまで栃木県北に存在しなかった「東洋医学科」の新設という好機を得ることができました。その時の知識と経験が現在のクリニック運営に活かされており、まさに医師として日赤に育てていただいたと思っています。当時から、病院とクリニックの連携が重要であると理解していたつもりですが、開業後にあらためて、医療は独りの力では出来ない、と痛感しました。日赤には幼少期からの同級生をはじめ、旧知のスタッフが多く大変心強いのですが、それに甘えることなく、今後は患者サービスや医療システムなど、多種多様な領域に関する課題をいただき、地域医療連携における真のパートナーシップが築ければと考えています。

毎日忙しいと思いますが、休日はどう過ごされていますか？

食ベ歩きが趣味で、わりとヘビーな「食べログ」です。しかし、サイトを見るだけ

で投稿はしませんし、さらに言えばレビューもほとんど読みません。有名・豪華・高額な店は使わないのがポリシーです。ではどうやってお店を選ぶのでしょうか？それは料理の写真を見て、盛り付けの繊細さ、選ばれた食材や器のセンスで店主の仕事ぶりを判断します。好みは和食と日本酒です。開業する前、大学院での研究が落ち着いた頃、修行を兼ねて全国のクリニックを見学しながら各地の食ベ歩きをしました。当初はカッコつけて、「この店でいちばん辛口の日本酒を」と注文していたのですが、大阪の某日本料理店の店主に「辛口を好む奴は日本酒がわかっていない」と説教されました。それ以来、甘口の芳醇かつ酒蔵ごとに大きく異なる個性的な味わいに感動し、日本酒に興味を持つようになりました。この店主とは今でも挨拶を交わす仲間です。彼らとは業種が異なりますが、社会人として、また経営者として学ぶことは多く、特に仕事に対する情熱は尊敬に値すると思っています。お勧めの日本酒は、秋田の新政、会津の口万、京都の玉川、奈良の風の森、高知の亀泉です。栃木は・・好みがあるでしょうから控えます。ちなみに、自宅では全くと言っていいほど飲酒はしません。

地域の方々、患者さんへ一言お願いします。

私が開業しようと思ったのは母親の病気がきっかけでした。母親の命があるうちにはと思い、日赤の先生方にはわがままをお許しいただき、準備を始めました。いよ

いよ病状が深刻になり、開業場所の選択に迫られた際、トコトコおたわらでテナントを募集しているという情報があり、平成25年10月に大田原中央クリニックを開業しました。結局、母親にはその様子を見せられませんでした。が、優秀なスタッフにも恵まれて無事に5年目を迎えることが出来ました。あらためて皆様のご協力とご指導に深く感謝申し上げます。ビル内のクリニックであり、限られた狭いスペースで来院された方々にはご不便をおかけしますが、かえって院内全体に気を配ることができ、良い選択だったと思っています。

その上で、あえて皆様をお願いすることがあります。日赤での勤務医の頃、特に東洋医学外来では、「とにかく患者さんの訴えを聞くこと」が設立のコンセプトであり、その精神は漢方医学の原点に通じるものでした。しかし、開業後の現在は大変多くの患者さんにご来院いただき、当時のようなスタイルを維持することが困難になりました。そこで診療方針を「より早く、より正確に」へ発展させ、スタッフ全員が総力を挙げて迅速な対応が出来るように努力しています。待ち時間が短縮されて喜ばない方はいないと思いますし、スタッフにも家庭があり、家族がいます。患者さんにも満足していただきつつ、一施設の責任者としてスタッフの生活も守れるように日々奮闘していますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

また、クリニックでひとりの医師ができることは多くありません。日常診療において、われわれの役割は「病気を治すこと」で

基本情報



- 院長 八代 忍
- 住所 大田原市中央1-3-15 トコトコおおたわら1階
- 電話 0287-23-1000
- 診療科目 整形外科、漢方内科、リハビリテーション科
- 休診日 月曜日午後・火曜日・祝祭日
(講演活動等により臨時休診することがあり、当院HPで随時お知らせしています)

はなく、「自分で治そうとする人の手助けをする」ことだと思っています。必要な検査をし、病状を説明し、いくつかの治療の選択肢を示しても、自分で考えようとせず完全に他人任せにする方も少なくありません。開業してからは、医師として自分ができることとできないことをはっきりと明示するように心がけています。それは学問的なことだけでなく、保険診療上のルールを守ることも含んでいます。

東洋医学に「養生」という言葉があります。生活習慣に留意し、摂生・節制を心がけ、回復に努めることを意味しますが、それには「努力」が必要だということです。当院には礼節を守り、私やスタッフと信頼関係を築き、努力することを惜しまない患者さんが大勢います。皆様が今後も「元気に通院」できるよう、心よりお祈り申し上げるとともに、私もお一層の努力をしていく覚悟です。スタッフ一同、ご来院をお待ちいたしております。

看護師コラム

「少しの運動で寿命を延ばそう!」

糖尿病看護認定看護師 磯 みゆき

新しい年が明け、寒い日が続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。寒いから動きたくないといって、運動不足になっている方が多いのではないのでしょうか。そのような方必見の情報をお伝えします。

運動不足と寿命の関係に関する研究結果が、医学雑誌ランセットに掲載されました。それによると、運動不足によって引き起こされる病気で亡くなる人の数は年々増えており、世界の全死因の9.4%を占めているそうです。ですが、運動や生活活動をする時間を1日に10分増やしただけで、その頻度が高ければ健康を大幅に改善出来るという研究も発表されています。寒さに負けず、通勤時のウォーキングや掃除、台所仕事などの生活活動を増やし、寿命を延ばしていきましょう。



マイタウン・マイホスピタル
ミニニュース

10月 第17回全国赤十字病(産)院スポーツ大会

ソフトテニス部全国3位/
平成29年10月28日から29日

全国赤十字病(産)院体育大会が横浜みなと赤十字病院が当番で開催されました。各地区からの代表チームが全国各地から集結し、約52施設の赤十字病院で大会が開催されました。当院からはソフトテニス部が初出場し、見事3位入賞を果たしました。これからの活躍に期待です。



那須赤十字病院ソフトテニス部と応援のみなさん

新型インフルエンザ患者発生時対応実施訓練

参加者100名/10月30日(月)

県北地区で新型インフルエンザ患者が発生した場合を想定し、第2種感染症指定医療機関(当院)※1である当院への患者の移送及び患者対応について実際の演習を通じ確認・検証を行い、行政や消防、病院職員・見学者を含め約100名で行われ連携強化を再確認する訓練になりました。

第2種感染症指定医療機関(※1) 感染症病床を有する指定医療機関



防護服を着ての患者受入(訓練)

病院ホームページ バナー広告募集

病院ホームページのトップページに広告を掲載しています。

■掲載位置

- A:全ページ左側の病院が指定する場所。
B:全ページ下部の病院が指定する場所。

■掲載位置

A枠:縦70ピクセル×横220ピクセル
サイズ 30KB以内

形式 gif, jpg, png形式

B枠:縦70ピクセル×横230ピクセル
サイズ 30KB以内

形式 gif, jpg, png形式

■掲載期間

一ヶ月を単位とし、最長1年

■募集枠

A枠:3(全て掲載中)

B枠:4(残り2枠)

■掲載料金

A:15,000円/枠/月

B:10,000円/枠/月

■申込み・問合せ

総務課広報係 ☎0287-23-1122(代表)

E-mail: nrchp@nasu.jrc.or.jp

ホームページアドレス: <http://www.nasu.jrc.or.jp/>



がんのつどい

2018/1/6(土) 10時から11時	便秘薬(薬剤師) 那須赤十字病院会議室1・2
2018/2/3(土) 10時から11時	リハビリテーション(理学療法士・作業療法士) 那須赤十字病院会議室1・2
2018/3/3(土) 10時から11時	フリートーク 那須赤十字病院会議室1・2

今月の表紙

日に日に寒くなっていく早朝に、こんな綺麗な朝日を見ることができた。今日も一日頑張ろうと思います。そしてまた明るく輝かしい新年の幕開けを願い、病院屋上のヘリポートで撮影した朝日でした。皆さん、平成29年お疲れ様でした。気持ちを新たに平成30年を始めましょう！



編集後記

桜色の御朱印帳を買いました。1枚ずつ増えていくお言葉をめくるとほっこり落ち着きます。心静かな一年になりますように。

看護師長 吉成美津子



「プラタなす」に広告を掲載しませんか

病院広報誌「プラタなす」に掲載する有料広告を募集しています。

■広告の大きさ 縦30mm×横95mm

■掲載期間 1号単位(4回/年発行)

■募集枠 最大4枠

■掲載料金 20,000円/枠

■掲載期間 発行号単位

■申込み・問合せ

総務課広報係 ☎0287-23-1122(代表)

本誌へのご意見・ご感想をお聞かせください！

抽選で3名様に「CroKuma 救護服ぬいぐるみ」「CroKuma ナースぬいぐるみ」「赤十字マグカップ」をプレゼントいたします。

以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールにてご応募ください。

●応募先

郵 送 / 〒324-8686 大田原市中田原 1081-4

那須赤十字病院 総務課

プラタなす第20号 プレゼント係

FAX / 0287-23-3004

宛先「総務課 プラタなす第20号 プレゼント係」

メール / nrchp@nasu.jrc.or.jp

件名「プラタなす第20号 プレゼント係」

●応募締切り 2018年1月31日(水)

※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

赤十字 那須赤十字病院

基本理念

マイタウン・マイホスピタル
～地域に根ざし、ともに歩み、心ふれあう病院に～

基本方針

1. 赤十字基本原則に則り、地域のための医療を提供します。
2. 患者さんの立場を尊重し、患者さんに信頼される病院をつくりまします。
3. 日々の研鑽を惜まず、医療の質の向上に努めます。
4. 保健・医療・福祉施設との連携を密にし、地域医療の発展につくします。

プラタなす 那須赤十字病院広報誌プラタなす No.20

発行日 2018年1月

発行者 那須赤十字病院 〒324-8686 大田原市中田原1081番地4

TEL 0287-23-1122 FAX 0287-23-3004

URL <http://www.nasu.jrc.or.jp> 印刷 株式会社 松井ピ・テ・オ・印刷

広告

心とからだのコンディショニング 健康づくりの太極拳 etc.

見学・無料体験は、毎週金曜日の午後7～9時
TOKO-TOKO おおたわら 市民交流センターで
問い合わせ先/なす健拳くらぶ ☎090-2469-3584